令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【春岡小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>算数の「図形」を苦手としている児童が多い。次いで、「数と計算」での正答率が低い。 <指導上の課題>反復、習熟に取り組む時間を十分にとることができていない。図形の学習では具体物等で学ぶ機会の減少を感じる	⇒	算・国は多くの分野で知識・技能に課題があるため、日頃の授業の中でしっかりと反復練習の時間をとっていく。また、ICTを活用し、児童の意欲向上を図りつつ持続して取り組むことのできる教材を取り入れていく。ドリルパーク、Kahoot!などの活用。【市学習状況調査で知識・技能分野の経年比較】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語での文章の読み取りや、算数での題意の把握に課題がみられる。複数の資料の情報を組み合わせて解答を導き出す力が弱い。 <指導上の課題>児童がじっくり考える場面が不足している。文章の構成やそれぞれの文を理解する活動が不足している。	⇒	短めの文章のまとまりの読み取りを、授業の中で確実にしていくために、教材の中で意識して繰り返し指導をしていく。主語・述語を基本とした、文法の理解を確実にする。算数の文章題に取り組む際は、題意を全体で丁寧に確認する活動により、定着を図っていく。【市学習状況調査で思考・判断・表現分野の経年比較】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	<国語>漢字の問題での誤答が多く、定着が不十分であることが分かった。また、少し複雑な文から主語を見つける問題に課題がみられた。主語に限らず、文法に関する学習内容に不十分な部分があるのではないかと思われる。 <算数>小数のわり算のうち、わる数が小数の場合の計算に課題が見られた。また、正しい式を選ぶ問題やグラフのメモリを読む問題での誤答が多かったが、丁寧に読んでいないことが原因と考えられる。
思考・判断・表現	<国語>記述する力は低くはないものの、複数の条件を満たして記述する力の弱さがある。文章を丁寧に読むことで、正答率が上がると思われるものが多かった。長い文章や複数の資料等を把握する力が不足している。 <算数>少し時間のかかりそうな問題に対して、無回答が多かった。粘り強く課題に取り組むことに課題が残った。国語と同様、問題文をしっかり理解することで正答率が上がると思われる。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の中でICTを積極的に活用し、問題に取り組むことはできてきている。夏休みの課題では、ほとんどの学年でスタサプを取り入れ、1学期の復習に取り組めるようにした。	変更なし
思考・判断・表現	C	日々の授業の中で、なかなか国語の文法や文章読解にじっくり取り組むことが難しい。算数の文章題については、題意の把握に丁寧に時間をとり、理解を深められるようにできているところもある。	Kahoot！などを活用し、主語・修飾語等を見つける問題に繰り返し取り組んだり、単元の中で意識をして文法の理解を深める手だてを組み込む。算数の文章題については、何が分かっていて何を聞かれているのかを全体で確認することをルーティーンとしていく。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	市の平均と比較すると下回っているものの、本校内で経年比較（異集団）をすると、国語では2つの学年が同等の結果となり1つの学年では向上が見られた。また、算数では4学年中3つの学年で向上が見られた。理科においては、5・6年生ともに経年比較（異集団）で低下しているため、確実な学習内容の定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	市の平均と比較すると下回っており、知識・技能分野よりも苦手としている分野とみられる。しかし、本校内の経年比較（異集団）では、算数において3・4年生で向上がみられた。国語では5年生で向上がみられた。知識・理解と同様に、理科では5・6年ともに経年比較（異集団）で低下しているため、実験方法や結果について思考する力をつける必要がある。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	市の学習状況調査の経年比較から見ると、国・算では3つの学年で前年度を上回っており、日頃の授業の中で、ICTを活用した反復練習に取り組んできた成果が少しずつ表れているとみられる。また、3年生は算数「数と計算」の領域については、市の平均正答率を上回っているものが多かったので、ドリルパークやKahoot！、九九の習熟を図るアプリの活用による低学年での基礎の定着ができていると考えられる。
思考・判断・表現	C	市の学習状況調査の経年比較から見ると、国語では4・5年、算数では3・4年で前年度を上回っているが、その他は前年度を下回っている。特に、日々の授業で教員が感じているのは国語に限らない「読解力」の不足であり、日々取り組んではきているが、なかなか結果につなげることができなかった。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	今年度も取り組んでいることを継続し、ICTを活用して習熟を図り、知識・技能のより確実な定着を目指していく。特に国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」「図形」は重点として授業の改善を行っていく。また、理科においても、学習した知識の定着を意識して、授業でICTを効果的に取り入れていく。全国学力・学習状況調査、市学習状況調査で、それぞれ効果を検証していきたい。
思考・判断・表現	全ての教科の基盤となる「読解力」の向上が次年度の課題の一つとなる。市学習状況調査の生活習慣調査で明らかになった読書量不足が、その原因の一端となっている可能性があるので、積極的に本と関わらせたい。また、各教科において、グループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、課題解決に向かって深く思考する機会を意図的に設けるようにする。全国学力・学習状況調査や市学習状況調査で、今年度を上回ることを目指す。